

## 西村大臣記者会見要旨

令和2年10月7日（水）15時54分～16時19分（25分）

（於：中央合同庁舎第8号館1階S101・103会見室）

（大臣冒頭発言）お待たせいたしました。まず私から冒頭に2点申し上げます。

1つ目が本日公表しました景気動向指数、8月の速報であります。この指標につきましては以前から申し上げているとおり、財を中心とした指標でありますので、サービスの動きなどを十分捉え切れていないということで、今後見直しをしていくというものでありますけれども、これまでとの連続性もあります。

引き続き公表しているところでありますけれども、まずCIの一致指数、これにつきましては前月からプラス1.1ということで、これを見ていただきますと4月5月はぐっと下がったわけですが、6月に過去2番目の上昇まで上がった後、過去最大の上げ幅で7月は上がりました。8月も上昇、プラス1.1ということでありまして、基調判断を悪化から「下げ止まり」に上方修正しております。基調判断については予め定められた基準に基づいて、機械的に判断していくものでありますけれども、「下げ止まり」ということで上方修正であります。

今回の判断の中身を見てみますと、以前から申し上げているとおり、生産、財の関係が多いわけですね。その中で特に輸出が寄与度でいいますと0.55あります。それから、それに伴って生産、耐久財の出荷、こういったところがプラスに出ていくわけですね。輸出に伴って生産も増えているということです。

輸出は以前から申し上げていますとおり、財務省の貿易統計で5月を底に海外経済の回復を背景として、7月8月と回復基調にあります。

そして、昨日発表されましたアメリカ側から見た統計なんですけど、したがってアメリカからすると輸入、日本からすると輸出というものが、7月は21.7%増、8月も19.1%増と非常に高い伸びで、アメリカ経済の回復を背景として輸出が非常に伸びております。

それに伴って鉱工業生産指数（IIP）、これも上昇しております。

これも以前に御説明しましたけれども、上がってくる中で9

月 10 月の見通しもプラスの見通し。特に緑の部分の輸送機械、自動車は非常に強い基調となっております。

そして、先行指標も 6 月に過去最大の上げ幅で戻った後、8 月もプラス 2.1 ということで、先行きについてもプラスであります。

この内訳を見てみますと、一つには在庫率の指数が大きく寄与しております。これはどんどん出荷をしていっているということでもあります。あとマネーストックと中小企業の見通し DI がプラスになっていきますけれども、これを見てみますと、いわゆる在庫指数はどんどんはけていっている、在庫が出ていっているということの上昇傾向にあります。

そして、マネーストックを見てみますと、これが非常に高い伸びであります。これは銀行貸出とも連動していくわけですがけれども、日本銀行による大規模な金融緩和が継続されている中で、そしてまた金融機関に対する貸出、日銀もそれを支えてくれております。そうした中で銀行の貸出が非常に伸びておりまして、それに伴ってマネーストック、マネーサプライも非常に伸びているということでもあります。

こうしたことを背景にしながら、中小企業の資金繰りも改善傾向にありますけれども、売上げ DI の見通しも 5 月を底に回復基調にあります。まだ水準は低いですがけれども、かなり戻ってきているということでもあります。こうしたことを背景に CI の先行指数も高い伸びを示しているということでもあります。

景気については景気動向指数だけではなく、幅広い指標を見ながら、景気全体については月例経済報告で毎月判断を示しています。ちなみに明日午後 2 時から景気ウォッチャーの発表がありますので、その動向についてはその直後に会見を行いたいと思っております。それから金曜日、10 月 9 日には、朝に家計調査、毎月勤労統計の公表がありますので、それを受けて閣議後会見で消費の動向、あるいは雇用、所得の環境について説明を行いたいと考えています。

ちなみにこの景気動向指数ですが、以前にも申し上げたとおり月例経済報告では、この財を中心とした景気動向指数のものだけではなくて、第 3 次産業活動指数とかサービス消費、外食とか旅行とか、それから公共事業とか、あるいは雇用所得の面でも労働時間と有効求人倍率しか見ていませんけれども、雇用者数とか総雇用者所得とか、こういったものを含めて総合的に

判断をしていっています。

さらには、一番大きいのはやはりGDP、これを見て判断をしていくということで、それ以外にも日次、週次のデータなども使っておりますけれども、いずれにしても景気動向指数については専門家の皆さんから見直しの必要性が指摘されていまして、現在、経済学の専門家の皆さんと個別にいろんな相談をして、見直し作業を進めているところであります。

来年の然るべき時期に見直しの結果もお示しをしたいと考えておりますが、当面は、これはこれで過去との連続性もありますので、この指標としてお示しをしながら、経済全体の動向、景気動向については月例経済報告でお示しをしていく。そして、景気動向指数の見直しも進めていくということであります。

以上が経済についての私からの本日の御報告であります。

それから、コロナの感染状況につきましては、昨日の新規陽性者の数が497名ということで、1週間前の531名と比べて減少してきているところであります。東京都が昨日発表されてきましたけれども、入院されている方が1,000人を切ったということで、このグラフでも明らかですけれども、病床の使用者の数と合わせてお示しをしておりますが、976人ということで、1,000人を下回るのは7月23日以来ということであります。ちなみに全国の入院されている方の数、これは1週間に1度厚労省が発表しておりますが、9月30日のものが最新であります。

今週また最新の、今日10月7日時点のものが発表されると思いますが、9月30日時点で3,266人でありまして、この数は1週間単位で出していますので、7月22日の2,744人以来の数字であります。その後、7月29日には4,034人ということで、7月末に陽性者の数がピークを迎えておりますので、そういった状況であります。そして、重症者の数は5.0%でありますから、病床はしっかり確保されているということであります。

そして、昨日申し上げましたけれども、発症日別のエピカーブ、感染動向は減少傾向にある中で、9月の中旬、そして9月の連休の前後で少し山がありそうな感じですが、ちなみに今日は142名ということで報告されておりますが、昨日は177名ということで、そういった陽性者の方々の数が発症した日に後ろに倒れていくわけですので、この辺りはまだ積み上がっていくんだと思いますが、9月23日は2週間前になりますので、そこま

では積み上がらないと思いますが、10日ぐらい前までは積み上がる可能性がありますので、これが横ばいから若干減少傾向かどうかというところになっていまして。しかし、この8月にぐっと下がってきたペースに比べると緩やかになっておりますが、この辺りは見極めをしていかなきゃいけないと考えています。

病床の体制など東京都は今申し上げましたとおり、重症者の数が25名ということ。それから、入院者の総数が976ということで1,000人を切ってきております。

このカーブは発症日別ではなくて、陽性者の数の報告の推移ですけれども、このところぐっと下がってきたのが、やや横ばいかどうかというのが、ちょっとまた減少傾向になってきているかなと今申し上げたところでありまして、これは報告日ベースですから、先ほどのエピカーブと言われる発症日別とは違いますけれども、日々の感染者の数も少ない方が良いわけでありまして、1週間の移動平均でこのぐらいの数字になっているということでありまして。

陽性率も3.3%ということで、このグラフを見ていただいたら分かりますように、7月末にかけてぐっと上がっていたものが、ちょっと減少傾向にまたなってくれているかな、という期待をしているところですが、この辺りはよく見極めていかなきゃいけないと思っています。週明けの月火は報告者の数が少なくて、週半ばの水木あたりが非常に多くなりますので、要注意で見なきゃいけないと思っております。

高齢者の方の数も200名前後ということで、60代以上の方であります。ここもよく注意して見なきゃいけないと思っております。

今申し上げたとおりですが、陽性率は東京都が3.3%。愛知県もぐっと下がって3.5まで来ていますし、大阪も3.67あたり。福岡は以前から申し上げている0.4。沖縄がちょっとまだ高い状況ですが、6%ぐらいあったころに比べると、少し落ち着きつつあるかなと思っていますが、沖縄も引き続き注意して見なきゃいけないと思っています。

この指標も、東京も25%を切ってきましたし、沖縄も50%は切っていてステージⅣには行っていませんけれども、個別の指標をよく見ていかなきゃいけないと思っています。PCRの陽性率は先ほど申し上げた5.5ぐらいですので、新規報告者の

数も 10 万人当たり 11 ということで、まだステージⅢには行っていませんが、この辺りはよく見なきゃいけないと思っております。

私からは以上です。

（問）よろしくお願ひいたします。既に大臣から御説明いただきました、景気動向指数ですけれども、基調判断はこれまで 12 カ月連続で悪化というところから、下げ止まりに上方修正されました。生産や輸出の回復の動きが続いているということだと思っておりますけれども、一方でやはり設備投資であるとか雇用情勢はまだまだ弱い動きが続いています。景気の先行きについてはまだまだ予断は許されないと思っておりますが、先行きについての大臣の御見解と、また、持ち直しの動きを持続させるための政策対応についてお願ひできないでしょうか。よろしくお願ひいたします。

（大臣）今日は主として、海外の経済の回復に伴って輸出・生産が上向いてきていると。これは非常に嬉しいことで、内需主導で戻していかなくちゃいけないと思っておりましたので、外需が伸びてくれるとこれはこれで、アメリカ、中国の回復基調がより鮮明になってくると、輸出に伴って生産も伸びてきますし、雇用もプラスの効果があると思っておりますので。工場は地方にありますので、特に地方経済にとって、生産が増えると、これはプラスの動きになってくるということで、期待をしているところであります。

他方、消費については、また明日なり金曜日なりに詳しくお話ししようと思っておりますが、6月に非常に回復してきました。緊急事態宣言を解除して、ペントアップ需要と呼んでも良いと思っておりますけれども、溜まっていたものが消費として大きく伸びてきました。しかしながら、7月8月は長雨、豪雨の影響もあり、また感染者の数が拡大したということもあって、7月8月は大きく伸びはしなかった、伸びが小さかったということ、停滞した部分があったと思っております。それが9月に入って感染者の数が減ってきたことに伴って、また気候も非常に良い中で、消費も基調は非常に底堅いものがあると思っています。

「G。T。キャンペーン」に対する期待も、各地に出張に出かけましても非常に強い期待がありますし、これを機に様々集客していこう、あるいは大きな期待感でキャンペーンを張っ

ていこうということも含めて、いろいろ考えて計画している地域がたくさんあると思いますので。非常に厳しい状況にある方々にとっても、消費の下支えというか、負担を支えていく。夕食は1,000ポイント、あるいは昼は500ポイント、こういったものの下支え効果もあると思いますので、消費が堅調に推移することを期待したいと思いますが、感染が広がらないことが大前提でありますので、それぞれの皆さんにはお一人お一人、また事業者の皆さんには感染防止策を徹底していただくということが大事だと考えています。感染防止との両立を図っていくということだと考えています。

今は家賃支援であるとか、それから「G。T。」の事業を着実に進めていくことが大事だと思っています。家賃支援も1件1件、契約書を確認しなきゃいけませんので、持続化給付金のようにネットでできるだけ早くということではなかなかいかない部分がありますが、しかしできるだけ迅速に支援がお手元に届くように、着実に行っていきたいと思います。

企業が雇用を守るのに踏ん張ってくれている雇用調整助成金についても、今は2週間ぐらいで助成がなされていると思いますけれども、1.6兆円まで来ておりますから、かなりの企業が使ってくれて踏ん張ってくれております。今、130万件まで来ていますので、こういった支援策をしっかりと届けていきながら、経済を回復基調に乗せていくことが大事だと考えています。

予備費もまだ8兆円近くありますので、これをどう有効に使っていくのかということも頭に置きながら、この雇用の状況、所得の状況、そして消費動向、設備投資、海外の動向、こういったことを日々しっかりと見ながら、臨機応変に対応していければと考えています。

(問) 大阪在住の知人は「G。T。」と関西の周辺の自治体のいろんな給付で、これをもう10回以上使っているという知人がいたりしまして、本当に東京は遅れたと思うんですが、大臣御自身はこの「G。T。」を利用してみたいと、お嬢さんもおられますけれども、そういうふうなお考えがありましたら伺いたいんですけれども。

(大臣) まず「G。T。トラベル」ですが、なかなかゆっくり旅行に行く機会が作れないと思いますし、恐らく私と一緒に普通は仲は良いんですよ。娘たちも仲がいいし、一緒にどこか

に遊びに行きたいという気持ちは強く持ってくれていると思いますけれども、私が動くことによっていろいろ周りに迷惑をかけることもありますし、ですのでしばらく家族旅行はお預けかなと思ってしまいますけれども。

初詣あるいは年末年始の様々な行事を、いろんなエビデンスに基づいて、科学的な根拠に基づいて、どうやって対応すればそうした行事を行っていいのか、あるいは何に注意してもらったらいいのかということの検討を始めたいと思っておりますが、夏もゆっくり帰れませんでしたので、年末年始にはお墓参りを兼ねて、私の地元の兵庫、妻の方の山口には戻りたいと考えています。そのためにも感染がこれ以上拡大しないように、また、経済もしっかりと回復基調に乗っていくように、全力を挙げて取り組んでいきたいと考えています。

「G o T o E a t」もゆっくり活用できる場面があれば良いんですけれども、なかなかそこまでまだ余裕がありませんので。しかし、多くの方には是非上手に使っていただいて。負担軽減にもつながりますし、また、飲食店のサポートにもつながりますし、地域で使うプレミアムの食事券もありますので、多くの方に使っていただいて、これまで厳しい思いをしてこられた飲食の皆さん、あるいは旅行関係の皆さん、ホテル・旅館の皆さんの支援に、大いにつながっていただければと期待をしています。

そして、「G o T o イベント」ももうすぐ始まることになると思います。そうした中でイベント関係、エンターテインメント、文化芸術関係、本当に我々の心を和ませてくれる、潤してくれる、そういった皆さんが辛い思いをしてこられていますので、是非これも多くの皆さんに活用していただいて、文化をしっかりと守っていく。そして、エンターテインメントの皆さんにも引き続き我々に潤いを与えてくれるように、是非取り組んでいただければと考えています。

(問) 今の「G o T o E a t」のことでちょっと教えてください。

今、ネット上とかで大変話題になっているのが、ネットで予約する「G o T o E a t」の使い方で、飲食店で安いものを頼んで、1,000円分のポイントを受け取って、それで次回以降に利用するということだと思っておりますけれども。お店が実際に

は安い商品の提供で予約などが使われていて、大変困っているという話も聞いております。大臣としてこういう「G o T o E a t」の使い方について、何か感じていらっしゃることでございまして、教えていただけないでしょうか。

(大臣) まずその「G o T o E a t」の事例については、先ほど野上農水大臣とも話をしました。今、様々な対応を検討されているようでありますので、農水省の方から近いうちに見解が示されると思っております。一般論でいえば、今回初めてやる事業、様々な支援策を行っております。「G o T o トラベル」、「G o T o E a t」の事業もそうですし、「G o T o イベント」もこれから始まることになると思っております。

それから、持続化給付金とか家賃支援金とか、初めて取り組む支援策であります。前例がない中で支援を行ってきておりますので、様々、制度設計が最初から100%というわけではなかったかもしれません。ですので、限界事例というか、この場合はどうなるんだ、こういう場合はどうだ、そういったケースが多々あると思っておりますけれども、これは利用されている方々の声、これは事業者の側もあるでしょうし、使う消費者の側もあるでしょうし、利用される中小企業の皆さんの声もあると思っておりますし、こういった皆さんの声をお聞きしながら、より良い制度に変えていく。

そして、何より公平に、公正に行われるということが大事だと思っておりますので、制度設計の段階で気が付かなかったことも含めて、不十分な点があったかもしれませんけれども、何より早く支援策、資金を届けるということが大事だと、そういう認識で我々は進めてきましたので、不十分な点があったとすれば、これは多くの皆さんの声を聞きながら、より良い制度に変えていくということに進めていければと思っております。公平で公正な制度にしていくというのが大事だと考えています。

ありがとうございました。